







# 骨軟部腫瘍グループ：骨肉腫治療開発マップ 2020.1.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/ 適応外薬
Stage I	広範切除 <sup>1)</sup> 			
Stage IIA	 広範切除 <sup>1)</sup> + 術前後メトトレキサート、 アドリアマイシン、シスプラチン	JCOG0905  広範切除 <sup>1)</sup> + 術前後メトトレキサート、アドリア マイシン、シスプラチンwith or without 術後イホスファミド 2010.2. ~		
Stage IIB				
Stage III				
Stage IV	(広範切除 <sup>1)</sup> + )  術前後メトトレキサート、 アドリアマイシン、シスプラチン、 イホスファミド*			

1) 腫瘍を健常組織で被包し一塊として切除する手術法

\* Stage IVもStage IIB,IIIと同様の戦略で治療開始されることが多いが、転移巣切除の可否や薬剤による効果により症例ごとの治療戦略がとられる。

# 骨軟部腫瘍グループ：軟部肉腫治療開発マップ 2020.1.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/適応外薬	
Stage I	 広範切除 <sup>1)</sup>				
Stage II					
Stage IIIA	 深在性腫瘍の場合 みなし標準 広範切除 <sup>1)</sup> + 術前後アドリアマイシン + イホスファミド	 <b>JCOG0304</b> 広範切除 <sup>1)</sup> + 術前後アドリアマイシン + イホスファミド 2004.3. ~ 2008.9. 2018.10.	 <b>JCOG1306</b> 広範切除 <sup>1)</sup> + 術前後アドリアマイシン + イホスファミド vs. 術前後ゲムシタピン + ドセタキセル 2014.2. ~ 2018.9. 2023.9.		
Stage IIIB	 浅在性腫瘍の場合 広範切除 <sup>1)</sup>				
Stage IV	アドリアマイシン イホスファミド <sup>2)</sup> パゾパニブ <sup>2)</sup> トラベクテジン <sup>2)</sup> エリブリン <sup>2)</sup> ゲムシタピン + ドセタキセル <sup>2,3)</sup>	 <b>JCOG1802</b> トラベクテジン vs. エリブリン vs. パゾパニブ 2019.12. ~	<b>NCT02659020 (イーライリリー)</b> ゲムシタピン + ドセタキセル vs. ゲムシタピン + ドセタキセル + オララツマブ	ゲムシタピン <sup>3)</sup> ドセタキセル <sup>3)</sup> オララツマブ <sup>4)</sup>	

1) 腫瘍を健常組織で被包し一塊として切除する手術法

2) セカンドライン以降での使用 3) 軟部肉腫は適応外 4) 国内未承認

\* 再発例は、遠隔転移を伴わない場合は原発腫瘍に準じて取り扱う。遠隔転移を伴う場合はStage IVに準じて取り扱う。

# 骨軟部腫瘍グループ：骨巨細胞腫治療開発マップ 2020.1.

対象	標準治療	JCOG試験	他組織の試験	主な未承認薬/ 適応外薬	
初発 Campanacci分類 Grade I	 病巣搔爬 <sup>1)</sup> + 局所補助療法 <sup>2)</sup>	 <b>JCOG1610</b> <b>病巣搔爬可能骨巨細胞腫</b> <b>病巣搔爬<sup>1)</sup> + 局所補助療法<sup>2)</sup></b> vs <b>術前デノスマブ<sup>4)</sup> + 病巣搔爬<sup>1)</sup></b> <b>+ 局所補助療法<sup>2)</sup></b> 2017.10. ~			
初発 Campanacci分類 Grade II					
初発 Campanacci分類 Grade III	 関節温存可能な場合 病巣搔爬 <sup>1)</sup> + 局所補 助療法 <sup>2)</sup>		 切除不能あるいは複 数回再発の場合 デノスマブ <sup>4)</sup>		
再発	関節温存困難な場合 en bloc切除 <sup>3)</sup>		関節温存困難な場合 デノスマブ <sup>4)</sup> + 外科 手術		
遠隔転移	肺転移切除 デノスマブ <sup>4)</sup>				

- 1) 内部に腫瘍が残存しないように骨の開窓部分から搔き出す手術法
- 2) 病巣搔爬後再発予防目的で行う治療法（ハイスピードバーによる拡大病巣搔爬、骨セメントなど）
- 3) 一塊あるいは広範切除（腫瘍を健常組織で被包し一塊として切除）により病巣を完全摘出する手術法
- 4) ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体製剤